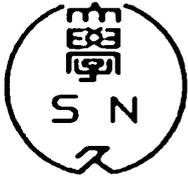


久留米大学医学部看護学科同窓会だより



ふたば

発行所

久留米大学医学部
看護学科同窓会

総数：5,747名

(令和3.3.31現在までの卒業生数)

(題字：故 藤井名誉顧問)



看護教育今昔

こんじゃく



出典：久留米大学創立50周年記念写真集



出典：久留米大学医学部看護学科2021年度学科案内

ご挨拶



同窓会会長

佐藤 和美

(I部2回生)

同窓生の皆様、コロナ禍の中、恙なくお過ごしのことと拝察いたします。この原稿を書いている現在、福岡県は2度目の『緊急事態宣言』延長対象の区域の真つただ中です。2019年12月に中国湖北省武漢に始まった新型コロナウイルス感染症は1年間を経た今、世界中で1.4億の人が感染しパンデミック状態が続いています。この「ふたば」が皆様のお手元に届くころにはワクチン接種も進んで、われわれ仲間の医療従事者がその最前線で身を挺して踏ん張り、そして我々一人一人も自粛生活を頑張った結果、収束の灯りが少しは見えてくるころかなと期待しております。

同窓会総会も、昨年当初は、夏になれば収束するだろうと楽観視していたのですがとんでもないことでした。総会のみならず幹事会や代議員会も縮小して審議と執行を重ねて参りました。幸い同窓会活動そのものに支障は生じておりませんのでご安心ください。

そして、今年の総会も、午後からの懇親会は中止とし、午前中の総会のみを開催、それも代議員や幹事会など役員の出席とし、昨年できなかった役員改正を承認いただくという計画しています。また庶務報告や会計報告などは、「ふたば」に掲載することで代替させていただきます。詳しくご理解とご了承をお願い申し上げます。ひと時も早く懐かしいお顔に会えますようにと祈念いたします。

久留米大学医学部
看護学科学科長三橋 睦子
(I部11回生)

気づけば確実に桜色の春の訪れが感じられるようになりました。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、卒業式、入学式、あのか祭、今年1月の戴帽式等々、多くの催事が残念ながら開催できませんでした。また、リモートや分散での講義、演習、実習、学年ごとの時差登校や、指定席での会話のない昼食など、私たちは経験したことのない大学生活となりました。そのような状況でも、折に触れ温かいご支援を賜り心より御礼申し上げます。

同窓会の皆様におかれましては、既に新型コロナウイルスが世界を席卷し、世界が危機状況に陥る中、医療現場の最前線で、懸命に感染予防と健康改善に取り組み、不安と恐怖、風評被害への苦悩など、壮絶な毎日であったことと拝察し、心より敬意と感謝を表します。

長引くコロナ禍での不自由な生活で、まだまだ新型コロナウイルスの変異種による感染拡大や、ワクチン接種の実施及びその効果など、不安要素がありますが、この一年を通して随分と分かってきたこともあります。必ずくるだろう、安心・安全で穏やかな生活の訪れを信じて。改めて気を引き締めなおし、今できる最適の振る舞いを考えて行動したいと思います。

顧問

秦 トヨ子

(看護婦養成所45回生)



新年度にあたり、職場には新卒の看護職の皆様をお迎えになり、活気に溢れておられることと、お喜び申し上げます。

とは云うものの、昨年からの武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症が拡散して、今尚終息に至らず、病院の中で対応なさる皆様には、精神的にも肉体的にもどんなにか大変な事と推察申し上げます。どうぞ、ご自身そして御家族の皆様の健康に御留意の上、頑張ってください。

丁度昨年今頃この誌上のご挨拶で書いたのは、この病気の流行を新聞誌上で知り、「外出から帰ったら手を洗い、含嗽を!!」と書き、自分でも実行しました。その後同窓会開催についても御相談を受け、残念だけど中止した方がよくないかと申し上げました。

毎日医療の最前線で御活躍の皆様、どうぞ呉々も御自身や御家族の健康に御留意なされまして、より良い看護にお力を尽して下さい。

早くこのコロナが終息して、同窓生の皆様と親しく会合出来る日を待っています。

久留米大学 医療センター 看護部長

原崎 礼子



緑風の候、初夏の青空が気持ちよく感じられる季節になりました。同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

令和3年4月に看護部長に拝命いたしました。これまでの看護部の伝統を伝承・伝授し、更なる発展ができるよう誠心誠意取り組んでまいりたいと思っております。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により日本中が大変な状況となりました。医療センターでも軽症患者の受け入れや地域外来・検査センターを開設し、地域医療に貢献できるよう取り組んでまいりました。患者さんやご家族が安心して医療センターを利用して頂けるように、職員一丸となり病院入り口でのトリアージを含め院内感染対策も強化してまいりました。また、入院患者さんの面会禁止が続く中、少しでも患者さんやご家族が安心できる時間が作れるよう、久留米大学文学部の学生さんと協同しオンライン面会ができる環境を整え、文医融合の取り組みも進めてまいりました。

今年度は、看護部スローガン「New nursing power～セルフコントロール力、患者・家族ケア力、オンライン活用力」の3つの更なる新しい力を掲げ邁進してまいります。

今後も「心が通い、信頼される医療」を理念とし、地域の皆さまに親しまれる病院を目指し、看護の質の向上に努めてまいります。同窓会の皆さまのご指導ご支援宜しくお願い致します。

久留米大学病院 看護部長

上野 知昭

(Ⅱ部11回生)



初夏の候、同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年からのCOVID-19の世界的流行により、様々な面で仕事・暮らしが変化しました。人々と集い、微笑み語らう日常はかけがえないことであったと痛感しています。看護職は今、コロナとの闘いにおいて最前線に立ち、病に苦しむ人々に寄り添い、多職種と協働し専門職としての力を発揮しています。日本看護協会、看護者の倫理綱領前文では「人々は、人間としての尊厳を維持し、健康で幸福であることを願っている。看護は、このような人間の普遍的なニーズに応え、人々の健康な生活の実現に貢献することを使命としている。」と示しています。より質の高い看護を提供し続けるためには、看護者自身の心身の健康の保持増進に努めることが、長期戦においては重要です。病院、組織、地域社会全体で、平和な日常を取り戻すことを共に願い、絆を強固に支えたいと思います。今を生きる私たちが、どのようなプロセスをたどり生命を紡いできたか、未来の人類へ誇らしく示せるよう行動していきましょう。

「人と地球にやさしい、生命を慈しむ医療」を理念とし、職員一丸となり、邁進する所存でございます。今後ともご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

看護教育今昔

ふたば28号表紙のテーマは「看護教育今昔」です。

久留米大学創立50周年記念誌(昭和53年刊行)と久留米大学医学部看護学科2021年度学科案内(令和3年発行)に掲載された写真をいただきました。

久留米大学の看護教育の歴史は、医学教育と同じ長い歴史を持っています。

時代は昭和から平成、そして令和と流れ、白黒写真からカラー写真へと変遷しましたが、看護教育の原点は今も昔も変わらず受け継がれています。臨床現場ではナースキャップを被らなくなり、「戴帽式」を挙げる学校は珍しくなりました。久留米大学医学部看護学科は今もなお「戴帽式」をあの懐かしい久留米大学病院独自のナースキャップで執り行っています。



旧看護専門学校校舎を背景に 令和2年度幹事会(令和3年3月27日撮影)



令和2年度同窓会総会・懇親会が中止となりましたが、新型コロナウイルス感染症だけでなく久留米市に大雨警報発令に伴い急遽会議が中止になるなど紆余曲折がありました。

毎年、総会報告を掲載していますが、今年度は総会・懇親会が中止になったため総会・懇親会が中止に至るまでの経緯を追加し報告します。

新型コロナウイルス感染症が令和2年1月16日、日本で初の感染者が確認されました。その後、WHOが1月30日に世界的緊急事態宣言、3月11日にはパンデミック宣言が発令されました。同窓会としては2月1日第2回幹事会の時期は、日本においてはまだ発生数も累計数も少数であり総会の開催をどうするかなどは検討課題にあがらず例年通りの準備を進めていました。

しかし、2月になり感染者が増加し爆発的な感染拡大や医療崩壊の危機が叫ばれ東京オリンピックも延期になりました。看護学科も3月の卒業式、4月の入学式も中止となりました。3密(密閉・密集・密着)の回避が求められる中、会食を伴う懇親会は中止すべきと判断し3月28日の第3回幹事会で懇親会のみ中止し総会のみ開催することを決定しましたが、さらに4月に全国に緊急事態宣言が発令されました。これをうけて4月22日に臨時三

令和2年度 同窓会会計決算

<収入の部> △: 予算より増 2020.4.1 ~ 2021.3.31

費目	予算額		決算額		差額	備考
1. 会費	4,400,000		7,678,680		3,278,680	
1) 学科入会金(準会員)		1,650,000		1,770,000		学科27回生1.5万×118名
2) 会費(終身)		2,750,000		2,750,000		学科23回生1.5万×110名
				2,850,000		学科24回生2.5万×114名
				308,680		終身会費督促分(15名)
2. 懇親会	700,000	700,000	0	0	700,000	開催中止
3. 雑収入	10,000		307		693	
1) 受取利息		1,000		307		預金利息
小計	5,101,000		7,678,987			
4. 前年度繰越金	8,413,779		8,413,779			
合計		13,514,779		16,092,766		

<支出の部>

費目	予算額		決算額		差額	備考
1. 総会費	1,550,000		343,782		1,206,218	
1) 会場		50,000		0		会場費、サービス料
2) 飲食代		700,000		0		懇親会飲食代
3) 印刷・発送費		700,000		343,782		資料、封筒印刷、ふたば送料込み
4) 雑費		100,000		0		余興謝金等
2. 役員会	350,000		177,804		172,196	
1) 日当(交通費込み)		330,000		173,000		役員会
2) 雑費		20,000		4,804		三役会・幹事会・代議員会
3. 実行委員会	220,000		55,868		164,132	
1) 日当		120,000		47,905		2020年度総会実行委員会
2) 交通費		50,000		0		(総会企画・ふたば編集)
3) 雑費		50,000		7,963		
4. ふたば編集	390,000		391,560		△1,560	
1) 印刷費		360,000		364,520		ふたば27号
2) 執筆御礼		20,000		27,040		4,400部印刷
3) 雑費		10,000				クオカード(1,000円×26枚分)
5. 看護学科補助	1,840,000		713,144		1,126,856	
1) 学友会補助金		1,000,000		0		教務課より: 2020年度の補助は不要
2) 卒業記念品		330,000		321,937		証書ホルダー113名分
3) 戴帽式		165,000		161,107		戴帽式キャップ・エンブレム(118名分)
4) 式典用花代		45,000		30,000		入学式、卒業式花代
5) 学会寄付		200,000		200,100		日本感染症学会寄付
6) 予備費		100,000		0		
6. 消耗品	110,000		62,890		47,110	
1) 事務用品費		60,000		16,885		印刷用紙、封筒等文具代
2) 郵送代		50,000		46,005		往復はがき、切手、郵送代
7. 渉外費	210,000		45,806		164,194	
1) 慶弔費		50,000		3,806		
2) 交際費		60,000		42,000		会議・式典出席の日当・交通費
3) 予備費		100,000		0		
8. 事務費	666,996		737,123		△70,127	
1) 事務員給与		600,000		636,240		
2) コピー		13,996		64,306		コピー機レンタル、トナー交換代
3) 電話料金		3,000		3,027		固定電話代
4) その他		50,000		33,550		wi-fiレンタル・ウイルスバスター更新
小計		5,336,996		2,527,977		
9. 次年度繰越金		8,177,783		13,564,789		
合計		13,514,779		16,092,766		

役会を開催し総会も中止することを決定しました。

総会では、庶務報告や会計報告、次年度の事業計画や予算計画の審議と役員改選が審議・承認を行う予定でしたが開催中止となったため、代替案として6月27日の第4回幹事会・第2回代議委員会を総会に代わる会議とすることになりました。しかし、6月27日会議当日の朝、久留米市に大雨警報が発令、近郊も冠水する事態となり三役会で急遽会議を中止することを決定しました。

総会だけでなく総会の代替とした第4回幹事会・第2回代議委員会も中止になったために、9月5日令和2年度第1回幹事会・第1回代議委員会を総会の代替とし感染予防のため人数を制限して庶務報告、令和元年度会計決算報告、会計監査報告、次期事業計画(案)、次期予算(案)の議事について報告、審議を行い承認されました。

令和2年度は役員改選年度で会員の承認が必要でしたが、総会が中止となり会員の承認をうけることができないため役員は1年間継続し令和3年度の総会で会長と新役員が承認されることとなりました。

受賞者は、福岡県勤労者知事表彰 上野知昭さん(Ⅱ部11回生)、福岡県医療・介護及び教育等に従事する看護職員に対する知事表彰 兒玉尚子さん(Ⅰ部16回生)、福岡県看護協会会長賞 田中節子さん(Ⅱ部9回生)、平嶋ゆかりさん(Ⅰ部17回生)、医学教育等関係業務功労者表彰 白土佳津子さん(Ⅰ部15回生)でした。

書記 築地原幸子(Ⅱ部11回生)

水落 裕美(学科5回生)

会計 首藤 敏夫(学科4回生)

松永 紘子(学科10回生)

<収入の部>

2021.4.1 ~ 2022.3.31

費目	予算額	備考
1. 会費	4,675,000	
1) 学科入会金(準会員)	1,800,000	学科28回生1.5万×120名
2) 会費(終身)	2,875,000	学科25回生2.5万×115名
2. 懇親会	0	0
3. 雑収入	500	
1) 受取利息	500	預金利息
小計	4,675,500	
4. 前年度繰越金	13,564,789	
合計	18,240,289	

<支出の部>

費目	予算額	備考
1. 総会費	500,000	
1) 会場	0	会場費等(久留米大学筑水会館使用のため)
2) 飲食代	0	懇親会飲食代
3) 印刷・発送費	500,000	資料、封筒等印刷、ふたば送料込み
4) 雑費	0	余興謝金等
2. 役員会	350,000	
1) 日当(交通費込み)	330,000	3,000円×(幹事会:20名×2回、代議員会:35名×2回)
2) 雑費	20,000	
3. 実行委員会	220,000	
1) 日当	120,000	令和3年度総会実行委員会
2) 交通費	50,000	ふたば28号編集委員
3) 雑費	50,000	
4. ふたば編集	420,000	
1) 印刷費	380,000	4,500部
2) 執筆御礼	30,000	1名あたり1,000円の記念品
3) 雑費	10,000	原稿等郵送費
5. 看護学科補助	1,670,000	
1) 学友会補助金	1,000,000	学友会補助金
2) 卒業記念品	345,000	3,000×115名
3) 戴帽式	180,000	戴帽式キャップ・エンブレム(1,500円×120名分)
4) 式典用花代	45,000	15,000円×3回(入学式、戴帽式、卒業式)
5) 予備費	100,000	
6. 消耗品	110,000	
1) 事務用品費	60,000	封筒、印刷用紙、インク等文具
2) 郵送料	50,000	往復はがき、切手
7. 渉外費	210,000	
1) 慶弔費	50,000	
2) 交際費	60,000	会長等、会議・式典出席の日当・交通費
3) 予備費	100,000	
8. 事務費	727,596	
1) 事務員給与	660,000	55,000円×12ヶ月
2) コピー	13,996	レンタル料(13,996円/年)
3) 電話代	3,600	電話代300円×12ヶ月
4) その他	50,000	wi-fiレンタル(32,400円/年)
小計	4,207,596	
9. 次年度繰越金	14,032,693	
合計	18,240,289	

令和3年度 同窓会会計予算(案)

令和2(2020)年度の総会を担当して



実行委員長

吉井 千穂 (I部22回生)

令和2年度同窓会総会は、I部9回生、22回生、II部4回生、看護学科9回生が実行委員となり、総会準備、ふたばの発行に取り組み始めました。

1月初旬より、予期しない「新型コロナウイルス」感染が世界中に流行しました。4月には日本においても「緊急事態宣言」が発出され、誰も経験したことのない状況となり、自粛生活や新しい生活様式などすべての人々の生活が一変しました。そのような中、皆様の思い出に残る総会・懇親会を行うために実行委員も感染対策を図りながら準備を進めてきました。しかしながら、皆様を新型コロナウイルス感染から守ることが大切である判断のもと、総会・懇親会は中止となりました。

ふたばは予定通り6月に発刊することができ、皆様のお手元にお届けすることができました。同窓生の皆様、お世話になった先生方、また何よりも同級生との再会を楽しみにしておりましたが、総会・懇親会は中止となり実行委員一同、残念な思いでいっぱいです。

新型コロナウイルス感染症により、看護に求められている役割や使命、患者ケアに渡り、看護師が世界中から注目されることとなりました。2020年は、ナイチンゲール生誕200年でもあり、ナイチンゲールの「看護の覚書」の「真の看護とは、感染を予防すること以外は顧みない」という、清潔を保つことや開け離れた窓からの新鮮な空気を取り入れることなど、まさに今のコロナウイルス感染対策と同じで、変わらない看護の原点を再認識する機会でもありました。令和3年になっても未だに新型コロナウイルス感染症が収まってはいませんが、3月よりワクチン接種が医療従事者へ先行接種が開始されています。新型コロナウイルスの早い収束と皆様のご健康を心より願いつつ、令和3年度は総会が無事開催されることを祈っております。

—同窓会役員及び幹事紹介—

(令和2年度総会后～令和4年度総会迄)

名誉顧問	秋山シスカ	(33回生)	幹事	上野 静香	(I部3回生)
顧問	秦 トヨ子	(45回生)	幹事	田中みとみ	(I部4回生)
会長	佐藤 和美	(I部2回生) ※	幹事	龍頭 榮子	(I部9回生)
副会長	大塚まり子	(I部14回生) ※	幹事	古賀 尚子	(I部12回生)
副会長	兒玉 尚子	(I部16回生) ※	幹事	白土佳津子	(I部15回生)
書記	築地原幸子	(II部11回生) ※	幹事	井手 純江	(I部20回生)
書記	水落 裕美	(学科5回生) ※	幹事	松尾 教子	(I部24回生)
会計	首藤 敏夫	(学科4回生) ※	幹事	園田ルミ子	(I部27回生)
会計	岡村 光子	(学科7回生) ※	幹事	猪島美津子	(II部7回生)
会計監事	北川 利香	(II部8回生)	幹事	工藤絵美子	(学科6回生)
会計監事	藤好 貴子	(学科1回生)	幹事	松本まなみ	(学科9回生)
			幹事	西依 知哉	(学科15回生)
			議長	樺島 結花	(I部19回生)
			議長	宮原 聖也	(学科13回生)

※令和3年度総会にて改選予定

大学病院活動報告

高度救命救急センターにおける新型コロナ対策活動



久保 美帆
(学科4回生)

2020年春、新たな目標と共に気を引き締めた最中、私の働く高度救命救急センターでは、新型コロナウイルス感染症(以下COVID-19)重症患者の受け入れが始まった。未知なる疾患が故に、感染を広めない環境整備・体制作り・メンタルヘルスケアが行われた。

同年10月より重点医療機関として当センター内にCOVID-19受け入れ病床8床が指定され、特定機能病院・三次救急として通常の救急体制を確保しながら、COVID-19重症患者を受け入れていくという使命も加わった。これに大学病院一丸となって取り組むため、またCOVID-19患者を1対1看護体制でケアするために各部署より12名の看護師が集結した。

「チームで奏でる安全と思いやりのハーモニー」をスローガンに掲げ、第一波・第二波の経験をもとに、体制・環境・教育の3つの視点から基盤を固め、感染対策を行いながら高度で安全な医療を提供できるよう日々取り組んでいる。呼吸器・ECMO・透析などのME機器や動脈ライン、多くの持続注射がつかがる中で、の腹臥位療法はチームの思いが一つにならなければならない一例である。また、制限がある中での家族看護についても日々検討している。

未知なる疾患に対する大学病院一丸となった緊急体制の整備、そして既存の組織を超えた協力体制とチームビルディングなど、これらの経験を今後活かしていきたい。



医療センター活動報告

オレンジセーフティ・ラウンドを実施して



写真向かって左：福井、向かって右：堤

福井 智子 (I部23回生)
堤 純子 (学科2回生)

私達は、2020年より認知症・せん妄看護の質向上および身体抑制の適正化を目的に、オレンジセーフティ・ラウンドを開始しました。認知症のシンボルカラーがラウンド名の由来です。病棟からコンサルトを受け、認知症看護認定看護師(堤)・老人看護専門看護師(田中勝)・医療安全管理者(福井)それぞれの立場から、専門性のあるアドバイスをを行っています。現在、メンバーに院内認定看護師DOTN(認知症の方への思いをつなぐ看護師)を加え、チームで活動しています。

新型コロナウイルスの流行により、ご家族との面会や外出外泊が制限され、患者さんの不安やストレスが今以上に蓄積しています。現場のスタッフとディスカッションする中で、苦痛や不快の原因を探り「パーソン・センタード・ケア」を実践できるよう支援しています。パーソン・センタード・ケアとは、認知症をもつ人を一人の“人”として尊重し、その人の視点や立場に立って理解することで、医療者中心ではなく、その人を中心とした最善のケアを目指すものです。身体抑制については、抑制以外の対策を提案し、解除に向けて働きかけています。病室に足を運び、安全面に配慮した療養環境であるか確認し、心身の安らぎに繋がる工夫を検討しています。

今後も、患者さんの尊厳と安全面を両立させた最善のケアを提供できるよう、更なる充実を目指して活動を続けていきます。



齋藤 泰臣
(学科11回生)

「看護の日」

元来、私は「看護の日」に何かしらの想いを馳せる様な人間ではなかった。バブルがはじけ、どん底の経済状況下で、工業高校卒業の私になんとか就職できたのは、個人経営の機械メーカーだった。休日は年に六〇日程度、ノルマを達成出来ない時は罵倒され、残業手当や代休なんて言葉は存在しなかった。常に口から洩れるのは現状の不満ばかり。自らそれを打破する様な考えは皆無で、手にした薄給で欲を貪る日々だった。

非生産的な毎日を生きていた私の心を奮立たせたのは、一つ年上の姉の死だった。姉は脳腫瘍だった。人間的さが失われていく姉の姿を直視することが辛く、介助どころか声を掛けることも出来なかった。予後が宣告されてからは、己の辛さから逃げたい一心で、姉の死を願うこともあった。私は無力だった。

姉の様に生きたくても叶わない。そうでなくても、病氣や怪我でそれまでの人生や夢を諦めなくてはならない。そんな人達が居るのに、何も積み上げていながら自分を棚上げ、現状の粗悪さを世のせいにして生きてきた。そんな自分が恥ずかしくて仕方なかった。機械メーカーを退職し、個人病院で看護助手として働きながら看護学校に通った。姉への償い、自分の人生を変える気概で机に向かい、最終的には大学の看護学科へ編入するに至った。

それまで何も持たなかった私が、国家資格だけではなく、仕事への誇りや自分なりの成長を感じられる様になり、看護師になる前の自分よりも満足した日々を送れる様になった。八年間の緩和ケア病棟勤務の中から綴った、「その声」が感



その声は

【佐賀県】齋藤 泰臣 43歳

「病院まで遠いよ。最期の会話になるかもしれない」そんなことない。間に合う」と小声で言い争う男女の声が、師走の電車に揺られていた私の耳に入ってきた。聞き耳を立てるつもりはなかったが、切羽詰まった男女のやり取りと内容が気になった。

夫婦と思しき2人は、携帯電話をのぞき込み会話を続けていた。「電話したほうが良いよ」「いや、人の迷惑になる。駅に着いてからでいい」。他の乗客も気になるのか、2人に視線を向けていた。「意識なくても耳は聞こえるって。掛けないよ。お義父さん、待っているよ」「電車内だから掛けられないよ」。お互いに感情が高ぶり、少しづつ声が大きくなっていった。

携帯電話の向こう側で、息を引き取るうとしていた父親がいて、臨終の場に間に合わない状況にあるという話は、その場の誰しもが理解できた。緩和ケア病棟に勤務する私にとっては、静観できない場面であつた。病棟では家族から患者への最期の声掛けを、後悔がないように気持ちよく伝えることを促してきた。躊躇いながらも席を立ち、2人に近付こうかとした時、「電話、掛けたほうがいいですよ」と2人の正面に座っていた女性が声を掛けた。近くにいた乗客も見守りながら頷いている。背中を押されたように男性が電話を掛ける。「お袋、親父の耳元に携帯電話を置いてくれ」。電車内に声が

動エピソードで受賞できたのも、その副産物のように思っている。看護師の道を選ばなければ、私はただの乗客の一人で、周囲の変化に気を留めはしても、心動かされることは無く、電車が揺られていただろう。

ただ座っているだけの乗客から、その体験を「看護の日」の想いへと昇華することが出来る乗客となれたのも、姉がその身を挺して私を看護師へと導いてくれたからこそと思う。今でも心を奮立たせなければならぬ時、躊躇し丸くなった私の背中を、姉の声が押しつけてくれている様に感じる時がある。そして春の訪れが近づいて来る時期になると、窓の向こうに見える桜の木々が、私の背中を押すあの声の様に芽吹いてくれている様に見えるのだ。

学科便り



卒業生の動向



看護学科4年生担当
梶 勇二郎
(学科1回生)

令和3年3月22日に卒業式が挙行され、看護学科24回生114名に学位が授与されました。令和2年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともない、病院見学会やインターンシップが中止され、オンラインによる説明会・採用試験に形を変えて行われるようになり、学生は慣れないWEB面接等に不安を抱えての就職活動になりました。

本年度の就職・進学状況は、看護師として医療機関に就職100名、助産師課程に進学10名、一般企業に就職1名でした。医療機関への就職者のうち、久留米大学病院には49名、九州地区の大学病院14名、関東・関西地区の大学病院12名と大学病院への就職が75%を占めました。今後は、各自置かれた場所でベストを尽くし、驕ることなく誠実で謙虚な姿勢で精進してほしいと思います。

国家試験の結果は、看護師114名中110名(96%)、保健師41名中41名(100%)が合格し、全員合格の目標は達成できませんでした。新卒者の全国平均合格率看護師(95.4%)、保健師(97.4%)は上回る結果でした。

卒業生は、久留米大学に脈々と伝えられてきた伝統を受け継ぎ、これから新たな歴史を刻み始めていきます。今後、同窓生の皆様方のお力添えを賜る機会も多いかと思いますが、どうぞ温かいご支援をいただきますようお願い申し上げます。

学生生活を振り返って



今村 光
(学科24回生)

この4年間を振り返ると、本当に沢山の経験と出会いに恵まれ、看護師としてだけでなく人としても多くのことを学ぶことができたと感じます。その過程で、何度も大きな壁にぶつかることがありましたが、どんなに高く見えた壁でも友人や先生方、家族など、本当に多くの方々の支えがあり乗り越えることができました。とても感謝しています。

春からは憧れであった看護師として久留米大学病院で新たなスタートをきります。これから先も様々な困難に立ち向かうことになると思いますが、この4年間で学んできたことを糧に、常に周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、患者さんの心に寄り添う看護師として励んでいきたいと思っています。



石井 夕佳
(学科24回生)

看護学科に入学当初は、看護の仕事について十分に理解できていませんでしたが、講義や臨地実習、ボランティアサークルの活動を通して、看護師の仕事に魅了されていきました。

昨年から新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、大学に登校できず友人と会う事ができない機会が続ぎ、将来に不安を抱いた時期もありました。ただ、その中で必死に患者さんと向き合いケアを行っている看護師の報道を見るたびに、看護の仕事へのやりがいや看護師の存在意義を改めて痛感しました。

これから看護師として働いていくうえで、患者さんやご家族に誠実に関わりながら信頼関係を育み、命を預かる覚悟と責任を持って看護の仕事に向き合っていきたいと思っています。

研究室だより：基礎看護学



基礎看護学
森本紀巳子
(I部12回生)

基礎看護学領域は、6名の教員で構成しています。学士課程の主な教授内容は看護学概論、生活援助技術、診療に伴う援助技術、看護過程、基礎実習などです。実習は、20名以上の専任教員で担当し、臨地では同窓生の皆様のご指導を頂いております。2020年度コロナ禍の実習では、たくさんのご配慮と支援を頂き、本当に感謝申し上げます。

また、研究室では、大学院修士課程看護教育管理分野専攻学生の研究指導を行っています。働きながら学ばれる同窓生の方々と楽しく看護を語り合い、時には現場の最新医療情報を得て、学士課程教育の参考にしております。大学院での学びに興味がある方は、ぜひ、お声掛けください。その他には、「看護技術実践の会」や「福岡佐賀神経難病ケア研究会」の開催、模擬患者(S.P.)の養成や子ども医学部Dr. BUNBUNなどに参加しています。

基礎看護学は、看護学の基盤・土台となる理論や技術について学習・研究する学問領域です。看護を学ぶ者にとつての導入部分となります。今後、看護に興味を持ち看護の道を進む学生が、自らの目指す看護師へと成長できるように看護教育方法を探求し、教育・研究・実践に努めたいと思います。

イキイキ同窓生だより



済藤 恵子

(I部27回生)

私は3年間、特別病棟に勤務しました。結婚を機に遠方へ引越、それから10年程専業主婦でした。子供が少し手が離れてきた頃に偶然テレビで見た復職支援研修実習を受けました。研修後、子供が小学生に上がり仕事を、と考えていた時に看護協会より就職の声がかかりました。1年ほどパートで働き地元へ帰ってきました。現在、総合病院に勤務

し10年目になります。仕事を始めた頃は電子カルテに悪戦苦闘し、業務も看護もとても時間がかかってしまいました。あの頃は本当にきつかったです。それでも家族と職場の方また患者様との関わりが支えとなりました。一般病棟、地域包括ケア病棟と勤務し今に至ります。

久留米大学病院での勤務はとても短い期間でしたが、あの時の師長さんを始めスタッフの方々患者様のことはとても鮮明に思い出されます。私が看護師の仕事を続けられるのもあの3年間のお陰でもあります。たくさんのお話を学ばせていただき感謝しています。最近、看護学校の同級生から連絡をもらいとても懐かしく嬉しい気持ちです。会える日を楽しみにこれからも頑張っていきたいと思ひます。



古村美津代

(I部15回生)

同窓生の皆様、益々ご健勝のことと存じます。新型コロナウイルスが感染拡大の一途を辿る中、何気ない普通の日常のありがたさを感じています。

私は、現在、久留米大学医学部看護学科で老年看護学を担当し、看護教育に携わっています。時に触れ、あの頃の先生方の教育に対する情熱や愛情に感謝するとともに素晴らしい環境の中

で看護を学ぶことが出来たことに感謝する日々です。私たちが学んだ校舎は、今も学生たちの授業に使用しています。年を重ねる毎に学生時代の寮生活、戴帽式や実習での出来事等、昨日のことのように思い出されます。あの頃の思い出と友は、私の宝であり、誇りです。今年、私たち15回生は、還暦を迎えます。私の今の一番の楽しみは、気の合う仲間とおしゃべりと四季を感じながらゆっくりと「頂上を目指さない山歩き」「頑張らない山歩き」です。この楽しみをいつまでも続けられるように、最近、ラジオ体操をするようになりました。今は、緊急事態宣言によりこの楽しみは叶えられませんが、私に与えられた役割を誠実に果たしていきたいと思ひます。

現在、医療の最前線で日々ご尽力されています同窓生の皆様の健康を心より祈っています。

光岡 静美

(旧姓：大坪)

(II部5回生)

「ふたば」が届くたびに同窓の皆様のご活躍を嬉しく誇らしく読ませていただいております。

平成元年に大学病院を退職し、4人の子供に恵まれ子育てをしながら介護施設の勉強をさせてもらいケアマネージャーの資格を取得したりしておりました。平成20年に夫の病後のサポートをする為、現役に復帰し今でも看護師として働いております。

院長を含め職員4名の小さなクリニックなので、看護師の仕事はもちろん受付業務から診療報酬の請求等何でもこなさなければなりません。院長である夫が救急専門医ということもあり熱中症など年に数回ですが救急車の受入もあり、急性期から在宅訪問診療まで幅広く携わっております。

昨年は医師会の依頼を受け、発熱外来のお手伝いもさせて頂きました。これからも体力の続く限り看護師として精進するように努力していきたいと思ひます。

今後の同窓会の更なる発展と、皆様のご活躍を祈念いたします。



右：光岡静美(旧姓：大坪)



周宝むつ子

(I部4回生)

“光陰矢の如し”私ガ天上人(?)となつて40数年、その間の医学の発展は目ざましくとりわけ昨年からのコロナ禍での医療など見るもの聞くもの全てが遠い世界に映ります。

私は大分県九重の田舎で旅館を営んでおります。古稀を迎え年とともに目、足、腰と支障をきたすようになって参りましたが、春は鶯、夏は蛭、秋には山一面を彩る紅葉そして冬の雪景色と四季折々の自然の中で世間とは隔絶された日々を送っております。



安藤 友美
(学科11回生)

私は久留米大病院に勤務して今年で14年目を迎え、現在は高度救命救急センターで勤務し、重症度・緊急度の高い患者の看護とフライトナースとして地域で活動しています。プレホスピタルの現場は医師1人、看護師1人での活動で、運航クルーや消防機関とのマネジメントも含め看護師の役割は多岐に渡ります。ドクターヘリが要請される患者は、重症外傷、急性心筋梗塞、脳卒中など緊急度が高く、限られた医療資源での患者対応が求められるため看護師としての責任感は重大ですが、現場に赴き看護介入ができることにやりがいを感じ、日々患者に貢献できるように学びを深めています。新型コロナウイルスの影響で取り巻く環境は変わり、感染対策強化の中で緊張感が高い状況の勤務が続いていますが、支え合える同僚がいる恵まれた環境に感謝しながら、チーム力を高めるために、マネジメント、コーディネーター、後進育成に力を注いでいきたいと思えます。



今井 花凜
(学科23回生)

久留米大学を卒業し、看護師として働き始めてからもつまずく一年が経とうとしています。この一年間はあつという間で、仕事を覚えるのに必死の毎日でした。初めは本当に看護師としてやっていけないのか不安でいっぱいでしたが、多くの患者さんと関わる中で、学生のころには経験することができなかった看護技術や人との関わりを学ぶことができ、充実した一年だったと思います。先輩方の手厚いご指導や、同期の支えもあり、だんだんと自分にできることが増えてきたことで仕事にもやりがいを感じ、看護師になってよかったと思うことも増えてきました。今では、看護学科で学んだ知識や感性を基盤とし、新たなことを学び、患者さんと関わっていくことにとてもやりがいを感じています。辛いことがあったときでも、久留米大学と一緒に学んだ仲間もそれぞれの場所で頑張っていると思うと元気が出るのです。これからもみんなと一緒に頑張っていきたいです。今はコロナ禍でなかなか会うことはできませんが、いつかもっと成長して皆さんで集まって話れる日が来ることを願っています。来年度も理想の看護師像に近づけるよう日々精進していきたいと思えます。

地域で活躍している卒業生

高良台リハビリテーション病院
副病院長 今泉 紀子 (1部6回生)

平成17年(2005年)3月に大病院を退職し、地域密着型の病院で看護人生の仕上げをしようという決意、現在の病院に転職して16年が経過しました。現在、1部4名、学科7名の卒業生が共に勤務し、地域医療の一端を担っております。

当院ではチームアプローチ推進のため、すべての専門職を病棟に配置(縦軸)、そして各専門職の教育支援として教育研修部(横軸)を設置したマトリクス組織を取り入れています。看護部門としては、専門性を高めるために、認定看護師、専門看護師、特定行為看護師等の育成にも力を入れています。しかし、看護が医療チーム内での認知を獲得するには、どのように「発信」するのか、今なお、看護責任者としての重責を痛感しております。

コロナ禍により人々の出会い・交流・顔の見えるコミュニケーションが自粛され、社会生活の重要な基本要素となる「人々の繋がりが弱くなっている」昨今、今こそ、看護の力を発揮するチャンスです。

桜の使いもすぐそこまで届いています。



↑左から2番目：今泉

令和3年度 同窓会案内

- 日 時 令和3年7月17日(土)
- 総 会 10:30~12:00

今年度は代議員および総会担当関係者にて総会を執り行います。
懇親会は中止とします。

担当回生 I部10, 23回生
II部5回生
学科10回生

同窓会活動

1. 総会と懇親会の開催 (年1回)
2. 代議員会・幹事会・三役会の開催
3. 機関誌「ふたば」発行 (年1回)
4. 同窓会名簿の管理
5. 会員・準会員・関係者の慶弔に関すること
6. 看護学科の諸行事に出席・贈花
 - ◇入学式、戴帽式、卒業式
 - ◇卒業生に記念品贈与
7. 看護学科の学友会への支援
8. その他
 - ◇看護学科の主催する学会や研究会への支援
 - ◇他学部同窓会との連携

お悔やみ申し上げます (敬称略)

13回生	石橋 須寿 (矢野)	R2/2/4
25回生	山本 方子 (佐伯)	R2/5/6
45回生	赤司 久子 (山田)	R1/8/21
45回生	木下 和代 (中村)	R2/10/12
45回生	永江 静子 (中川)	R2/5
I-1回生	雲井 加代子	R2/12/14
I-3回生	阪田 久子 (石井)	R3/4/22
II-7回生	田中 ルミ (中尾)	R2/5/26

(令和2年4月以降に連絡頂いた方です)

同窓会事務室案内

場 所：看護学科B棟 (旧専門学校校長室)
住 所：〒830-0003
久留米市東櫛原町777-1
時 間：月・木9時~13時まで
事務代行者待機の曜日と時間
その他はFAXをご利用ください。

TEL：0942-31-7590
(内線3960)

FAX：0942-37-0322

URL：http://nurse.kurume-u.ac.jp/

メール：kurume_kango_dousoukai@yahoo.co.jp

投稿のお願い

久留米大学医学部看護学科同窓会だより「ふたば」では、同窓生の他方での活躍を、幅広く知っていただきたく、皆様からの自薦・他薦での投稿を心よりお待ちしております。



- 編集委員**
- 上田美奈子 (I部23回生)
 - 城崎 清子 (I部23回生)
 - 藤田 尚子 (I部23回生)
 - 緒方 淳子 (学科10回生)
 - 古川 理恵 (学科10回生)

編集委員一同

同窓会の皆様にご助力を賜り、無事にふたば28号を発行することができました。この場を借り厚く御礼申し上げます。
多くの同窓生にお読みいただき、ふたばに寄せられた方々の思いが皆様の更なる力になることを、編集委員一同、心より願っております。

編集後記

